

# かけはし

# HIKONE×FAMILY

p2. 3  
かけはし版  
ボランティアマップ

p4. 5  
育児休暇を考える。

p6. 7  
ぼくたちの育児休業

【編集・発行】

彦根市男女共同参画センター「ウイズ」

〒522-0041 彦根市平田町670

TEL/FAX 0749-24-3529

E-mail [with.hikone@oboe.ocn.ne.jp](mailto:with.hikone@oboe.ocn.ne.jp)

【編集委員】外谷陽向、真島君騎、堀江明

【表紙 写真】荒神山公園にて

【表紙 デザイン】海野晴輝

令和5年3月1日発行

# かけはし版 ボランティアマップ

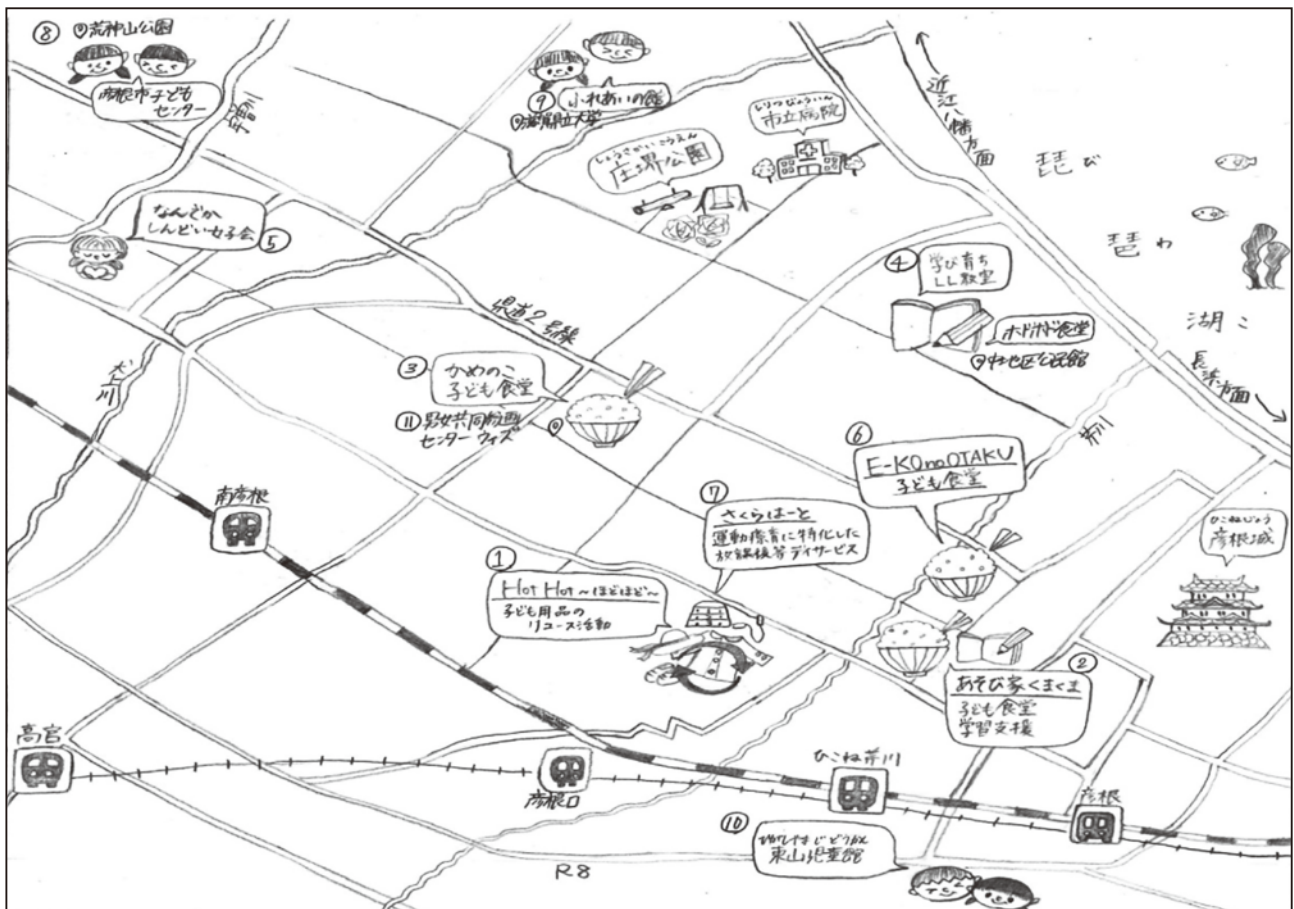
## 彦根市内子ども・若者支援ボランティア活動マップ

彦根市内の子どもに関するボランティアの活動場所が分かるマップを作成しました。

このマップは、支援が必要な子どもだけでなく、自分が必要な支援はどこで受けられるの？ボランティアに参加してみたいけど、どこに行けばいいの？など、ボランティア活動に参加したい人、地域活動に興味がある人のきっかけになるようまとめました。

このマップから、困っている時に互いに助け合えるような輪が広がればうれしく思います。

## 彦根市



### マップ掲載について

\*マップはイメージです。作：はるか

(例)

募集方法：Facebook投稿、ポスター掲示

募集期間：2022年8月16日～31日

掲載場所：彦根市男女共同参画センター「ウイズ」のFacebook、市内の商業施設

※彦根市内にはこのボランティアマップで掲載している以外のボランティア団体が多数ありますので、詳細は彦根市社会福祉協議会のホームページをご覧ください。(http://www.hikone-shakyo.or.jp/volunteer/)

### マップと掲載団体一覧の見方について

地図掲載番号・団体名：11.彦根市男女共同参画センター「ウイズ」

① 活動場所（住所）：彦根市男女共同参画センター「ウイズ」（平田町670）

② 活動内容：男女共同参画を学び、啓発・推進するためのセンターです。市民のみなさまの施設として、どなたでもご利用いただけます。各種講座や相談事業、貸館事業、啓発ビデオ・各種書籍の貸出などを行っています。

③ ホームページ・URL等：<https://www.city.hikone.lg.jp/kurashi/shisetsu/14/index.html>

# マップ掲載団体一覧

## ボランティア団体

### 1. Hot Hot ~ほどほど~

- ①武田仏壇店内（芦中町49）
- ②【ベビー&キッズ用品/学校必需品リユース】  
まだ着られるベビー・子ども服や彦根市内小中学校の制服・体操服を収集し必要な方につないでいます  
【ホドホド食堂】(活動場所：中地区公民館)  
月1回開催しています。主な対象は子どもですが、大人も子どもも誰が来てでもいい地域（子ども）食堂\*1です。
- ③【ベビー&キッズ用品/学校必需品リユース】  
<https://www.facebook.com/hodohodo.hikone.shiga>  
【ホドホド食堂】[https://www.instagram.com/hodohodo\\_hikone](https://www.instagram.com/hodohodo_hikone)

### 2. あそび家くまくま

- ①銀座芝居小屋1階（銀座町4-26）
- ②滋賀・彦根で子どもたちや大人が集まってゆるゆる過ごしています。思い思いに過ごしたり、いろんなところに行ったり挑戦したり！まちなかのちょっとした子どもと大人の「ひみつきち」です。  
■子ども食堂、居場所事業、体験活動、クリエイティブ制作、学習支援
- ③<https://hikosaponet.localinfo.jp/>

### 3. かめの子ども食堂\*1

- ①男女共同参画センターウィズ（平田町670）
- ②子どもが一人でも参加できる食堂です。毎月第三土曜日に、ウィズでお昼ご飯と一緒に食べませんか。大人一人300円、子ども0円。詳しくは、彦根市男女共同参画センターウィズに掲示のチラシやホームページをご覧ください。
- ③<https://www.facebook.com/kamenoko.shokudou/>

### 4. 学び育ちLL教室

- ①中地区公民館（大藪町2610）
- ②さまざまな事情で勉強の機会が不足しているなどの中学生や高校生が参加できる学習支援教室です。学校の勉強補助やおしゃべり・交流をしています。毎週月曜日の19時から、彦根市中地区公民館で開催しています。
- ③<https://www.facebook.com/LLclass>

### 5. なんでかしんどい女子会

- ①さくら彦根店日夏町第四自治会館（日夏町1776-9）
- ②若者・女性向けの居場所です。月2回、飲み物やお菓子、お絵描き道具を揃えて場所を開けています。自由に過ごすスペースです。  
お問い合わせはQRコード（公式LINE）からどうぞ！
- ③[https://twitter.com/hikoneko\\_TL](https://twitter.com/hikoneko_TL)



### 6. E-KOnoOTAKU子ども食堂\*1

- ①彦根四番町スクエアteraitei（本町1丁目11-7）
- ②E-KOnoOTAKUは、子どもたちのうれしい、楽しい、美味しいを応援する子ども食堂です。毎月1回開催（開催日は各種SNSにて配信しています）地域の子もたちが、様々な体験ができるよう企画、運営も行っています。  
どうぞお気軽におといあわせくださいね。
- ③[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/eekonootaku/](https://peraichi.com/landing_pages/view/eekonootaku/)

\*1子ども食堂とは…

地域住民等による民間発の取組として無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供すること。家庭における共食が難しい子供たちに対し、共食の機会を提供する取組。  
(引元：農林水産省Webサイト 子供食堂と連携した地域における食育の推進)

### 7. さくらはーと

- ①Ra・ヴィールTACHIBANA1階（後三条町90-2）
- ②彦根市内で初!!の運動（スポーツ）療育に特化した児童発達支援・放課後等デイサービス『さくらはーと』です。児童発達支援・放課後等デイサービスとは、発達に心配のあるお子様や障がいのあるお子様の育ちを、ご家族と一緒に見守り働きかける療育機関です。
- ③<http://2018sakura.com/>お気軽にこちらのQRコードからお問い合わせください！



## 児童発達支援・放課後デイサービス

### 子どもたちが遊べる場所

掲載場所以外にも「まんまるひろば」や「さんさんひろば」など誰でも遊べる場所がたくさんあります♪  
※詳しくは、ひこね子育て応援サイトひこ根っこをご覧ください。



### 8. 彦根市子どもセンター

- ①荒神山公園（日夏町4769）
- ②次世代育成支援の拠点として、子育て支援と青少年健全育成のために、子どもたちの健やかな成長を支援する施設です。子どもたちが安心して遊んだり学んだりできる居場所づくりに努めています。また、楽しみながら学び、体験できる教室や講座を設けたり、子育てで仲間の情報提供、相談等を行ったりして、親育ち子育てに繋がる取り組みを進めています。

### 9. ふれあいの館

- ①ふれあいの館（八坂町2408）
- ②次代を担う子どもたちを健全に育成する機能を持ち、すべての児童・生徒が放課後や休日、休業日等に気軽に利用できる施設です。また、就学前の幼児と保護者が、遊びを通じてふれあいや交流を促進できるようなイベントの実施や、子育てに不安や悩みを持つ保護者に対する相談等、子育て支援を行っています。

### 10. 東山児童館

- ①東山児童館（里根町163-6）
- ②子どもや保護者が自由に、安心して遊べる場を提供しています。また、保育所等へ行ってない子どもと保護者を対象に、地域子育て支援拠点センター「チャチャひろば」も開設しています。(無料)  
ひろばでは、親子等の遊び場や親子等同士の交流の場の提供、保育士による育児相談、「子育て家族講座」の開催等を行っています。

## 編集者からの一言

ボランティアマップを作成するに当たり、ご協力くださったボランティア団体の皆様、誠にありがとうございました。私自身、この編集委員を務めるまで知らなかったボランティア団体や活動を知ることができ、新たな発見になったと同時に、彦根市では本当に多様なボランティア活動が行われていることを実感しました。支援が必要な方だけでなく、ボランティアに参加したいけれど踏み出せずにいた方々にとっても意味のあるものになればと考えております。

# 育児休暇を考える。

## ◆「育児休暇」を考える。

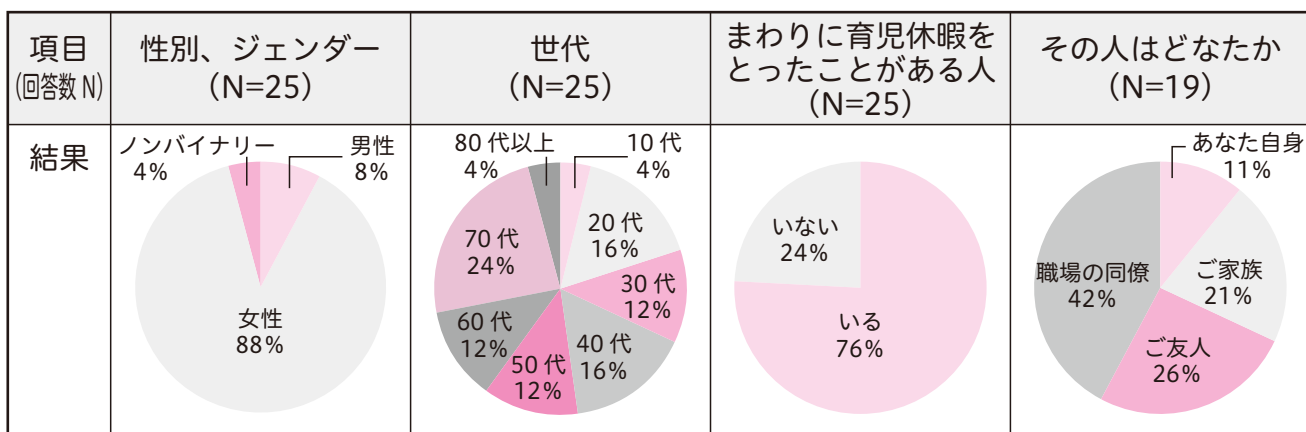
みなさんは、家族や友人と育児休暇について少しでも話したこと、ありますか？今回、育児休暇を少しでも自分ごととして考えるため、彦根市民が育児休暇を考える場をつくってみました。

## ◆「育児休暇」の身近さの把握

2022年8月10日～8月末、彦根市在住の方を対象に「育児休暇」に関するアンケート調査を実施。

その結果・・・

**3/4**以上の方がまわりに育児休暇をとったことがあると回答！



## ◆「育児休暇」の実態の把握

アンケート調査にご協力いただいた方の中から、できるだけ幅広い世代、背景をもつ方々で座談会（通称：かけはしカフェ♪）を開催！

**【育児休暇】**について、みんなで話しました。

また、彦根の新たな魅力を再発見できれば…という想いと、参加者みんなが集う場に打ちとける目的で、アイスブレイクの意味も兼ねて **【彦根おすすめ場所】**についても聞いてみました ^^



今回ご参加いただいたのは、以下の9人！

参加者	世代	性別、ジェンダー	出身	育児休暇の身近さ <sup>*2</sup>
A	10代	ノンバイナリー <sup>*1</sup>	滋賀県外	—
B	20代	女性	彦根市外	○(職場の同僚)
C	30代	男性	滋賀県外	○(友人)
D	30代	男性	滋賀県外	○(親戚、職場の同僚)
E	30代	女性	滋賀県外	○(親戚、友人、職場の同僚)
F	50代	女性	彦根市内	◎
G	50代	男性	彦根市内	—
H	70代	女性	彦根市内	○(職場の同僚)
I	80代	女性	彦根市内	◎

<sup>\*1</sup> ノンバイナリー：「男性・女性」「彼・彼女」のような、どちらか一方にとられない全てのジェンダーアイデンティティ（自己認識）

<sup>\*2</sup> ◎：自身が育休取得者、○：まわりの方が育休取得者、—：まわりに育休取得者はいない、( )：身近な取得者

## 育児休暇

### Q 育児休暇、どんな印象？

男女平等や子育て政策の話とセット

取得率世界と比べても低い

自分で選択して取得するもの  
→ 幸せそう

子どもと向きあう期間

会社の規模によって取りやすさが違うんだろうな

実際取得した1年、あつという間だった

性別に関わらず子育てに集中できる期間

育休を堂々ととれる仕組み、風潮が企業にない

### 編集者ピックアップ

「育児はわからないことだらけで大変、という点が注目されがち。確かに大変だけど、大変さを乗り越えた先にまわりへの感謝など新たな学びが得られたり、自分の成長につながったりする。育休を選択、育児と向き合う経験をした方が選択できる社会になれば。」など、各家庭の事情にあわせ選択するという意見が印象的でした！

### Q 十分な取得期間って？

1年  
+2年できればなおよさそう

1年以上

人によるが、1年ぐらい？

女性：3年(0才~3才)  
男性：1、2ヶ月でも(1才半前後)

仕事に戻るという点では1年まで

基本的にはずっとあげたい

女性：2年くらい。  
男性：1才半~2才の頃1年くらい。

2年くらい？

### 編集者ピックアップ

「育児に主体的に携わる人が長期で育休をとりつつ、サポート役の人が育児の忙しい1才半前後にとるなど、**時期も期間も選べたらいいな。**」ここでも選択がキーワード。1歳半前後に育児が忙しいというのが意外でした！

### Q 育児休暇を取得しやすい世の中へどうやったら変えられる？こんな制度あったらいいな。

子どもをもつ選択肢を考えられる程度の金銭的支援

在宅でもできる仕事を割り当て、職場復帰しやすい仕組み

特定の期間に何回かとれるようにする

まわりの理解、空気を変えられたら。やさしい目が増えれば。

必要な人が必要なときに必要な期間とれる制度

育休取得中の補填を専門とするサポート人材バンク制度

保育施設など社会的な育児支援施設の地位向上

企業規模の大小問わず、育休を当たり前にとれる仕組みが企業にあれば

### 編集者ピックアップ

「育休取得者の補填で仕事、育休取得者の職場復帰時には別の育休取得者の補填へ！」職場目線での核心をつく意見。育休を選択する人を職場の人が気持ちよく送り出す、そんな社会になるといいですね ^^

### 編集を終えて

自分自身が育児休暇をとったことがなく、それほど身近ではなかった私。今回かけはしカフェ♪で話してみることで、参加前より理解が深まった実感があります！みなさんも家族や友人と育児休暇について、ちょっとだけ話してみませんか？ ^^

ちなみに、かけはしカフェ♪やアンケート調査で聞いた【彦根おすすめの場所】も彦根歴の浅い私には新発見の連続！

### 【得票数別!! 彦根おすすめの場所ランキング】

第1位

荒神山  
荒神山公園

お子さま連れはもちろん、ルリビタキなど、野鳥観察にも。

第2位

カフェ  
グレコ、朴、おとくら...

地域のカフェがランクイン！

第3位

松原  
琵琶湖畔

夕日がおすすめ♪

その他、こんな場所も!!

庄堺公園  
金亀公園  
わんぱく広場  
福満公園

曾根沼  
野田沼

県立大学  
滋賀大学

足軽屋敷街  
まちなかに残った古民家  
お堀道、町並み

日吉神社  
慶光院  
長久寺



みなさんもぜひ彦根のまちにお出かけして、現地の魅力を再発見してみませんか？ ^^

編集者  
kimi.mashi

兵庫県出身。彦根市在住30代専業主婦。ひこねスタジオ所属。2022年5月、約6年勤めた会社を退職。単身赴任先より彦根へ。会社員時代、彦根-大阪城公園間を通勤した時期もあったものの土日祝に限らずの通勤で、彦根の魅力に本格的にふれるのは今年5月以降がはじめて。育児休暇は親戚がとっていた程度。



@HIKONESTUDIO

# ぼくたちの育児休業

令和3年6月に育児・介護休業法が改正され、産後パパ育休制度が創設されるなど、男性の育児休業が推進されています。一方、厚生労働省の「雇用均等基本調査（令和3年度）」によると、男性の育児休業取得率は13.97%と、女性の85.1%を大きく下回っています。また、男性育休の取得期間も「5日未満」が25.0%となっており、女性との差は依然として大きいと言えるでしょう。

この要因や、男性が育児休業を取得するためのポイントを知るため、約1年間育児休業を取得した3人の男性にインタビューを行いました。

## プロフィール

<p>まき P</p>  <p>職業：行政職員 家族構成：妻と3人の子</p>	<p>おさるのジョージパパ</p>  <p>職業：子どもと関わる仕事 家族構成：妻と子</p>	<p>ゆー</p>  <p>職業：教員 家族構成：妻と双子の子</p>
--	--	--

## インタビュー

### ■育児休業を取得したきっかけは何ですか？

4月に上の子が幼稚園に入り、送り迎えなどの負担が増える中、第3子出生後も仕事をしながら生活するのは難しいと感じたためです。当初は、妻の負担を減らすために1ヶ月程度の育児休業を取得する予定でしたが、途中で延長を申し出ました。その理由は、子どもと向き合うことで初めて見えてきたこともあり、自分にとっても成長できる機会だと感じたためです。

「我が子と365日一緒に居られたらどんなに楽しいだろう」「毎日3食、家族揃って食べられたらどんなに幸せだろう」と、ワクワクした気持ちで取得しました。1年という長期の休業も、産後の妻のサポートや慣れない育児のために必要な期間だと考えました。夫婦で協力して手厚い育児をしたい、という強い思いがありました。(実際はうまくいかなかったことも多かったです。)

稀なケースとしてですが、男性の長期育児休業について耳にすることもありましたし、育児にも積極的に関わりたいと思っていたので子どもができる前から、育児休業に興味はありました。お腹の中の子どもが双子と知った時は「取るしかない」と思い、決めました。最初は2ヶ月程度で検討していましたが、職場の女性の先輩から「2ヶ月じゃ何も変わらないよ」と言われ、思い切って1年間取る決心がつきました。

### ■育児休業を取得することに不安はありましたか？

漠然とした不安はありました。4月に新しくできた部署に配属されたところで、人数も少なかったので、取得するかとても悩みました。しかし、家庭の状況を上司に相談したところ「仕事の代わりは誰かができるけど、家の代わりはいない。今しかできないことなので、気にせずに休めばいい」と言っただけ、育休を取得することにしました。

不安はありませんでした。しかし、キラキラした育休のイメージと実際が違いすぎて、取得してからいろいろ悩みました。家事がうまくできない。子どもが懐かない、泣き止まない。一緒に過ごす時間が増え、妻との喧嘩が増える。何のために育休を取りたいのか、パートナーと一緒によく話し合って決めることをおすすめします。金銭面では助成金などの制度が手厚いので、心配な方は調べてみると不安が和らぐかと思います。

不安というか、取得に向けて、時期や期間についてはたくさん悩みました。女性は産休後から育児休業を取得される方がほとんどかと思いますが、男性の場合は取得時期が選べます。我が家は双子育児への不安が強かったので、どの時期に取得するのが良いか(どの時期が大変なのか)悩みましたが、結局は初めての育児ということもあり、産後すぐの時期に取得することにしました。

## ■育児休業を取得するため仕事で工夫したことはありますか？

第2子が生まれた際にも1ヶ月ほどの育休を取得したので、その時にした工夫を紹介します。育休中は、自分の仕事を他の職員に任せることになるので、その1ヶ月にやるべきことと、やらなくても良いことを仕分けし、引継書の形にまとめました。特に大事なものは、分からないことがあったとき用に「聞く人リスト」を作っておくことです。これがあると、イレギュラーな事態にも対応できるようになるので、細かに作りました。

職場の方との引き継ぎが大切なのはもちろんですが、これから一生繋がっていく家族との話し合いも非常に大切でした。子どものこと、これからの生き方のこと…じっくり対話するチャンスでした。職場の方の理解もあり、辛い仕事を休むこと・復帰することに大きな不安や抵抗はありませんでした。それよりも「これから家族とどう過ごすか」ということにエネルギーを使うことの方が大切だったのだと、今になって思います。

教員ということもあり、仕事が年度単位で動いていきます。出産が3月初旬だったので、3月いっぱいはいは妻の実家に助けてもらいながら、仕事もほぼ通常通り行いました。4月から育児休業を丸1年取得することで職場への影響をできるだけ小さくするように工夫しました。また、早めに管理職に育休取得について伝え、その年の転勤については避けてもらうようお願いしました。

## ■育児休業を取得して良かったと思うことはありますか？

一番は、上の子と仲良くなれたことですね。第1子が1～2歳の頃は仕事が多忙で遊ぶ時間が取れず、あまり懐いてもらえませんでした。ただ、前回の育休時には、第1子との時間をたくさん取れたため、関わり方が大きく変わりました。幼児語でも何を言おうとしているかが分かったり、自分で寝かしつけができたり、やっと父親になれた気がしました。

子どもの成長を間近で見ることができたことです。まさに育休の特権でした。初めて寝返りをした瞬間、歩いた瞬間、「パパ」と呼んでくれた瞬間。今でも当時の写真や動画を見るとニヤニヤします。また「働く」ことから一度距離を置いたことは貴重な経験でした。職場から一歩離れてみることで気付いたことも多く、現在の仕事にも活かされていると感じます。

双子育児の我が家に関しては“2人がかり”というマンパワーの点が最も大きかったです。初育児ということもあると思いますが、本当に2人がかりでカツカツの生活でした。子どもができて、双子・三つ子の家庭とお話しする機会が増えましたが、母親一人で育児をされている方は本当に苦労されています。今でもよく、長期取得して良かったね、と夫婦で話します。

## ■育児休業中に、男性ならではの困りごとはありましたか。

特に感じていません。日中は子どもセンターやまんまる広場などによく行くのですが、保育士の方や他のお母さんと楽しくおしゃべりさせていただいています。強いて言うなら、トイレ問題ですね。デパートなどで、女子トイレにしか子ども用便器が無いときがあり、使えるトイレを探すのに苦労します。なので、最近はずまず使えるトイレを探す癖がついています(笑)

母乳が出ないことです。母の偉大さをまざまざと見せつけられました。寝かしつけ、お風呂、抱っこも「ママ」と言って泣く。私がいくらあやしても泣き続け、妻に代わった瞬間泣き止む。そんな切ない毎日でした。子どもが1歳を過ぎた頃からは一緒にできることが増えました。育児には母親と父親との役割分担が不可欠だと痛感しました。

育児に関してはどうしても母親じゃないとできないこともありました。特に双子のうち、一人はどうしても母親とじゃないと寝ないなど、ずっと一緒にいても差は歴然でした。代わりに、自分は料理や掃除などの家事を頑張ることで妻の負担を減らせるように工夫しました。元々、料理は好きだったので、この期間に色々な料理に挑戦するのを楽しみました。

## ■育児休業を取ろうか悩んでいる男性へのアドバイスをお願いします。

私は幸い、周囲の人に恵まれたことで、育休を取ることができました。しかし、仕事の状況によっては、長期の休みを取ることが難しい方も多いと思います。その場合、短い期間でも良いので育児のために休んでみてください。その時に重要なのは、子育ての副担当にならないことです。丸一日、自分一人で子どもを見る機会を作ることで、初めて子育ての大変さに気付けると思います。常に気が張っている状態や、自分の時間が取れない経験をすると、妻へのリスペクトが高まり、その後の家庭生活も円満になるのではないかと考えています。

じっくり悩んでください。よく悩んで、家族のことや働き方についてパートナーと対話する時間こそが貴重です。私のように、育休を取得しても理想と現実のギャップに苦しむこともあります。また育休を取得しなくても父親にできることはあります。父親が育児に「参加する」と表現することが多いですが、育児は「協力する」もので。育児をする父親が特別視され「イクメン」という言葉が流行するような社会、それが子育てしやすい社会だと言えるでしょうか。育休という選択肢は制度として維持しつつ、本当に「子育てしやすい社会」とはどんな社会なのか、実現するために何が必要なのか、考える時期に来ていると思います。

家庭や仕事の環境はそれぞれ異なるので、一概に「男性も育休とりましょう」とは言えません。でも、一昔前の「男性が仕事、女性が家庭」という時代から、女性も働き、男性も家事育児をすることが当然の時代になってきています。その中で、夫婦で育休をとったり、男性側が育休をとったりすることが選択肢として当たり前に選べるようになるというのいいなと思います。もちろん職場の理解も必要ですが、夫婦で話し合っ、ご自身の家庭に合った育児環境を整えられるように制度を活用していけばよいのかなと思います。

## 第37回 彦根市男女共同参画フォーラム

# のびのび、ジブンらしく ～やさしい絵本の世界から～

いわさきちひろを祖母にもち、自身も一児の母として絵本を描き続ける松本春野さん。

現実の忙しい生活の中では忘れがちな多様性や「数字だけでは判断されない」世界がひろがる絵本をとおして、松本さんが伝えたい「ジブンらしい生き方」とは？

「今」を生きる、  
すべての人に送るメッセージ。

令和5年(2023年)

# 3月12日(日)

13:30～16:00 (13:00開場)

会場

ひこね市文化プラザ メッセホール  
〒522-0055 彦根市野瀬町 187-4

入場  
無料

- \*定員 180名 (事前申込制・先着順)  
※申込がない方は入場いただけません
- \*手話通訳あり
- \*託児無料 (要予約) ※0歳～未就学児に限ります



### ◆ Schedule ◆

- 13:30 開会  
表彰式 (男女共同参画川柳、彦根市男女共同参画事業者)
- 14:00 講演会  
テーマ「のびのび、ジブンらしく  
～やさしい絵本の世界から～」
- 15:05 トークセッション  
テーマ「ジブンらしく彦根で生きる」  
松本 春野 さん × 和田 裕行 さん (彦根市長)
- 15:50 閉会 (16:00 終了予定)

### ◆ 講師 松本 春野 (まつもと はるの) さん

絵本作家 / 1984年 東京都出身。多摩美術大学卒業後、『絵本おとうと』(山田洋次監督監修)でデビュー。大人向けの絵本(『モタさんの“言葉”』『Life ライフ』)や、社会問題を背景にした作品(『おばあさんのしんぶん』『ふくしまからきた子』)、食育絵本など幅広い分野で活躍中。近著は『バスが来ましたよ』。祖母は絵本作家のいわさきちひろ。

◆主催 彦根市男女共同参画フォーラム実行委員会

◆共催 彦根市男女共同参画センター「ウイズ」 ◆後援 彦根市

\*お問い合わせ\*

彦根市男女共同参画センター「ウイズ」(休館日:火・日祝・年末年始)

〒522-0041 彦根市平田町670番地(彦根市福祉センター向かい)

TEL / FAX 0749-24-3529 メール with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

※新型コロナウイルス感染症拡大等の状況により、内容変更や中止となる場合がございます。あらかじめご了承ください。



ウイズの公認キャラクター  
ウィー(右)とズー(左)

イベント詳細・申込はこちらから



## ウイズ相談室のご案内

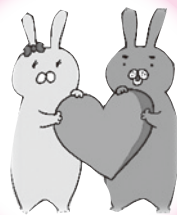
### 総合相談

\*面接相談

\*電話相談

水・木・金 13:00～16:00

(最終受付は15:30)



### 専門相談(こころの悩み・法律相談)

毎月1回:こころの悩み相談

毎月1回:法律相談

※総合相談での予約が必要です。

専用ダイヤル **0749-21-5757** ☆相談は無料です。プライバシーは守られます。☆